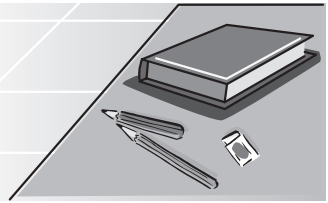


学生時代と図書館 85

—お宝が眠っている、探検場所—

河野 弘美



私にとって図書館とは、お宝が眠っている最高の探検場所です。思い起こせば幼少期の頃より私にとって図書館とは、未知の世界への扉を開けてくれる心躍る場所でした。小学生の時は毎週末、ワクワクドキドキしながら、図書館で行われていた紙芝居や絵本の読み聞かせ会に参加し、「あ～面白かった」と充実した休日をスタートしていましたが、まさかその後の人生においても日々図書館へ足を運び「あ～今日もすごいことを知ってしまった～あ」と同じワクワクドキドキを体験しているとは夢にもおもっていませんでした。人生って不思議です。

大学時代に「アーカイブ・マニュスクリプト研究」という言葉を始めて耳にした瞬間、それまで私が理解していた図書館に秘められた可能性と魅力は一気に倍増しました。「図書館には、印刷されたものだけでなく手書きの貴重な資料が保管されていて、それらの資料を実際に閲覧することができる！なんて素晴らしい場所なんでしょう」と思ったのと、「どうやって、どこにどんなお宝が眠っているのかを調べられるのかしら」という疑問が同時に浮かんできました。その答えはすぐに判明しました。事件を追う刑事と同じく聞き込みと自分の足でかせぐ、でした。

アーカイブ・マニュスクリプト資料を実際に手に入れる為に、私が最初に訪れたのは大英図書館でした。現在の図書館にはオンライン検索という素敵なシステムがあります。そのシステムを利用することにより素早く簡単に自分の探している資料までたどり着くことができますが、アーカイブ・マニュスクリプト資料はピンポイントで検索することができないのが苦勞でもあり醍醐味でもあります。

ある人物のアーカイブやマニュスクリプトの保管場所までは検索システムで探しますが、そのあとは、考古学者の発掘作業さながらの作業をしないとはいけません。アーカイブやマニユ

スクリプトは大抵、小ぶりの箱にひとまとめにしてはっています。様々な資料がその箱の中にはいっているので、一つ一つに目を通し、自分の研究に必要なものかどうかを見極めていかないとはいけません。自分の筆跡を棚に上げていますが、人の殴り書き文字を解読することほど苦痛と快感をとまなう事はありません。これは「a」なのか・・・それとも「o」なのか・・・はたまた「l」の筆記体なのか・・・と1文字を解読するのに恐ろしい時間をかけることもしばしばあります。内容を解読したときや、自分が探していた資料に出会えた時の喜びと感動は、言葉では言い表すことができません。また、それらの資料を通して研究している人物への見識が深まり、「そんなことを考えていたんだ～」とドッキリわくわくは止まりません。

ニューヨーク市の市立図書館へ出向いたときは、アーカイブ・マニュスクリプト資料を探す興奮と同時に映画『ゴーストバスターズ』で使用された場所を訪れたことへの喜びにも浸りました。遠方なため、とても訪れることができなかった図書館へダメもとで連絡をした際、貴重な資料を特別にデジタル処理を施していただき、資料を手にすることができたこともありました。司書の皆さんの寛大なご対応に感謝の日々は大学時代同様に今も続いています。

京都外国語大学の図書館にもマニュスクリプト資料が沢山保管されています。貴重な資料がこんな身近にある恵まれた環境を最大限に皆さんにも体感していただけたら嬉しいです。実際に書かれた文字に触れることにより、思ってもいなかった冒険があなたを待ち受けているかもしれないのです。皆さんにもワクワクを是非体感していただき、未知の世界への扉を開いていただきたいです。

こうの ひろみ（講師・英文学）